



## 平成16年度「21世紀COEプログラム」研究教育拠点に本学が選定されました!

21世紀COEプログラムは、「我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図ること」を目的として、文部科学省が優れたプログラムに重点的な支援を行っている事業です。本年度は、全国の国公私立大学から320件の申請があり、28件が選定されました。そのうちのひとつとして、奈良女子大学の下記のプログラムが採択され、平成16年度より5ヵ年計画で事業を実施することになりました。

### 既成概念を払拭して古代都市の実態へ — 21世紀COEプログラム採択にあたって —

拠点リーダー 人間文化研究科教授 舘野和己

#### あまによし奈良の都は咲く花の薫ふがごとく今盛りなり

小野老の詠んだこの万葉歌は、奈良の都—平城京の繁栄ぶりや天平文化の華やかさを表すときに、必ずと言ってよいほど引かれます。まさに天平の平城京は、繁栄を謳歌する都であった、というイメージがあります。現在復原工事が進む豪華な平城宮大極殿も、いっそうそれに花を添えます。しかしこの歌を単純にそう解釈してよいのでしょうか。

先の歌は天平元年(729)初夏の頃のものともみられています。前年9月にはわずか2歳の皇太子が死去、それが遠因となり、この年2月に左大臣長屋王が、謀反の疑いで自殺に追い込まれ、その結果として藤原武智麻呂ら4兄弟の政権が誕生。8月には神亀から天平へと改元し、4兄弟の妹光明子が聖武天皇の皇后となりました。皇族でない女性の立后は、きわめて異例のことでした。

こうした騒然とした情勢下で先の歌は詠まれたのです。天平は決して平穏に幕が開いたのではなく、矛盾に満ちた時代でした。実はこの歌は平城京で詠まれたものではありません。小野老は当時、大宰府の次官である少弐の地位にあり、同僚たちとの宴席での歌でした。長官の帥であった大伴旅人はそのとき、「我が盛りまたをちめやもほとほとに奈良の都を見ずかなりなむ」と詠み、平城京を見ることなく老いていく我が身を嘆いています。大伴氏は新興の藤原氏とは反対に、衰退しつつある伝統氏族でした。

そうであるなら、この歌を単純に平城京の繁栄を謳歌したものとは言えなくなります。勢いを増しつつある都の藤原氏と対比して、西国の果てにいる我が身は…。鬱屈した感情が、そこからは浮かび上がってくるのです。

古代日本形成の特質を解明することをめざす本プロジェクトのキーワードは、古代都市です。平城京が主な研究対象の1つとなります。それを歴史学だけでなく、考古学・地理学・国語学・建築史学・生活文化史学など、24名のメンバーが共同して研究し、それによって平城京の実態を明確にし、ひいては古代日本がいかにかにできあがっていったか、その特質を解明したいと思っています。

それにはいつさいの既成概念を払拭して、対象に迫る必要があります。先の万葉歌はまさにその実例です。そこから導かれる盛都というイメージをはがし、実態としての平城京に、さまざまな視角から迫る試みを推進していきたいと考えています。

このプログラムの詳細のURLは、<http://koto.nara-wu.ac.jp/news/H16news/040721/040721.htm> です。



平城京大極殿(模型)  
奈良文化財研究所蔵

## NWU奈良会館 完成

—奈良女子大学外国人研究者等宿泊施設—

このたび、外国人研究者等の宿泊施設としてNWU奈良会館が完成しました。

この建物は、昭和9年に学長官舎として購入されたものを、本学に受け入れる外国人研究者及び国際交流推進のため本学を訪れる外国人等の宿泊、その他交流事業の用に供するために改修・整備されたものです。

改修された建物は、木造瓦葺き平屋建てで、建築当時に取り入れられた大正ロマンの雰囲気や建具等を可能な限り活かし、近代モダン建築の粋を集めた日本の伝統的建物の良さが生かされています。この施設は本学から北西へ徒歩10分のところにあり、5つの居室は全て個室形式で各室にはバス・トイレが付いています。



NWU奈良会館内部の居室の様子

—地域貢献特別支援事業—

## 「地域女性リーダー養成講座」が大盛況

本講座は、自治体と地域住民とが共同して男女共同参画の地域社会をつくる活動を応援するため、その担い手となる女性リーダー育成を図ることを目的として、本学の教員が中心になり、県と市の協力を得て、開講しているものです。当初20名の定員で受講生を募集したところ、奈良県の他、京都府、大阪府、三重県から62名の応募があり、定員を30名に拡大して開講しています。受講者は30～40歳台を中心に幅広い年齢層に渡っており、毎回9割以上が出席して熱心な質疑、議論等が行われています。講座内容は、平成15年度に「基礎講座1」(リーダー論、経済の見方、家族論など)、平成16年度前期に「基礎講座2」(ボランティア論、NPOの組織と運営、コミュニケーションスキルアップ等)、後期には「実習講座」(社会調査の技法と実習; 11月から来年2月まで)を予定しています。本講座受講生の中から、今年9月に京都府木津町長が誕生しました。



平成15年度の開講式の風景

## 奈良女子大学は女子学生のキャリア形成教育を支援します

—女子学生のための4年一貫のキャリア教育を平成16年度から実施—

中期計画に「女子学生のキャリア形成を支援するため、4年間一貫したキャリア教育を実施する」ことを掲げている本学は、平成16年度から全学共通科目として「キャリア教育科目」を新設し、後期から、主に1・2回生を対象とする「現代社会と職業」を開講しています。

この科目の内容は、単なる職業教育ではなく、「女性としていかに働いて生きるか」という人生設計を、受講生が主体的に考える契機になることを目指したものです。今後の計画としては、平成17年度から各学部の特徴を踏まえた「専門職論」、平成18年度にはより実践的な「キャリアデザイン支援講座」を開講する予定です。

## 市内4大学と奈良市との間で 連携協力に関する協定等を締結

奈良市と本学をはじめとする市内の4大学(奈良教育大学、奈良大学、帝塚山大学及び本学)との間で「奈良市との連携協力に関する協定」及び「奈良市学校教育活動支援事業(スクールサポート)に関する協定」が締結され、平成16年6月11日(金)に、奈良市役所において調印式が行われました。

スクールサポート事業は、教員志望の大学生を「支援者(スクールサポーター)」と位置づけて市内の幼稚園や小中学校に派遣し、授業での補助や、野外活動、クラブ活動の手伝い、障害のある児童への介護補助などを行うもので、全国でもユニークな取り組みです。

本学では教員志望の学生を中心にスクールサポーターの募集を行い、現在17名の学生が登録しています。



調印式に出席した4大学学長と奈良市長  
左から石澤帝塚山大学長、柳澤奈良教育大学長、大川奈良市長、久米学長、鎌田奈良大学長

## 公開講座のご案内

平成16年度は13件の公開講座を開設しています。すでに下記のとおりさまざまな分野の講座を実施しました。

- ・「青少年問題を考える」
  - ・「イラク情勢を考える」
  - ・「数と形の不思議な旅」
  - ・「パソコン活用講座」
  - ・「奈良女子大学の歴史」
  - ・「健康／病いと文化～共生的暮らし方のために」など
- このほか、下記の講座を予定しています。
- ・「子ども学の新しい地平(2)」

11月6日(土),13日(土)13時30分～17時30分 無料  
詳しくは本学ホームページをご覧ください。  
(<http://koto.nara-wu.ac.jp/le/info4.html>)

## 「第1回さあ見学！産研学」開催



平成16年6月30日(水)、奈良県内の産業界、公設試験研究機関、大学、高等専門学校との交流・連携を目的とした「さあ見学！産研学」奈良女子大学見学交流会を開催しました。

会場となった記念館は、学外参加者や報道関係の方々でほぼ満席状態となりました。本学からは「光・色」をキーワードとした4つの研究発表が行われた後、学内の諸施設を見学していただきました。交流会後に行われたアンケートでは「奈良女子大学にはこれまであまり行く機会がなかったが、知的な感じの学生が多く、また、研究テーマも基礎(発見)を目的として組まれていると感じた」などの感想をいただきました。

## 研究最前線

### 未知の素粒子の兆候か？ - B中間子の実験で新展開

本学理学部物理科学科の高エネルギー物理学研究室は、茨城県つくば市の高エネルギー加速器研究機構(KEK)で進行中の国際共同実験であるBelle実験(写真)に企画段階から参加し、装置の建設からデータ解析まで多くの貢献を行っています。この実験の中心的課題はB中間子という陽子の5倍強の質量を持つ粒子を生成し、その崩壊反応を詳細に調べることです。プラスの電荷を持つ陽子に対して、マイナスの電荷を持つ反陽子という粒子の存在が知られており、陽子と反陽子は互いに粒子・反粒子の関係にあります。現在我々が住む世界には陽子、電子といった粒子だけが存在し、それらの反粒子である反陽子や陽電子は残っていません。実は、こうした粒子と反粒子の物理法則の違い(これをCP非保存と呼びます)を研究する上でB中間子の崩壊過程は最適なのです。2000年から今年夏までに蓄積した実験データを用い、様々な崩壊パターンについて互いに粒子・反粒子の関係にあるB中間子と反B中間子の間の差(CP非保存)を測定した結果、崩壊パターンが違えばCP非保存の大きさにかなりの差があることがわかりました。

これは素粒子物理学の標準理論を超える未知の素粒子の存在を示唆しているか、あるいは未知の物理法則の影響を観測したのではないかと考えられます。

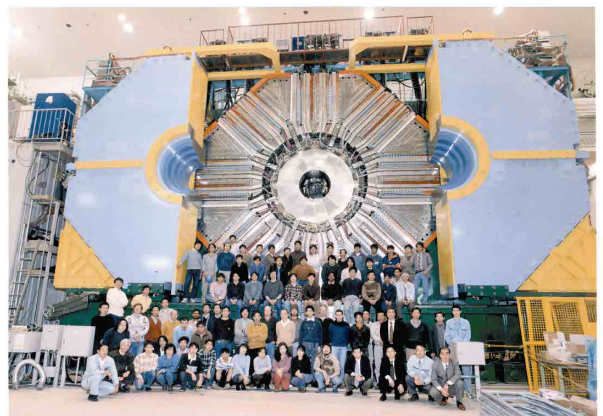
この成果は8月20日に新聞各紙夕刊で報道されました。詳しくは、KEKと本学物理科学科のwebサイト(<http://www.kek.jp/newskek/2004/julaug/belle5.html>)と <http://www.phys.nara-wu.ac.jp/openlec2004/miyabayashi/page1.html>)に掲載されています。

## 国際交流プラザがオープン

この程、生協に隣接し中庭に面した一角に、半オープンテラスの国際交流プラザを開設しました。テーブルと床には吉野杉が用いられており、自然で暖かみのある空間です。留学生や日本人学生、教職員がオープンな雰囲気の中でくつろいで歓談できると場所として評判は上々です。



昼休みにくつろぐ学生たち



Belle測定器と実験チーム(1998年完成直後)

## アフガニスタン女子教育支援

—平成16年度公開講演会及び

アフガン料理を楽しむ会の開催—

6月26日(土)、奈良女子大学アフガニスタン女子教育支援のための女性教員研修実施委員会は、2004年度の第1回公開講演会を開催しました【五女子大学(お茶大、津田塾大、東京女子大、日本女子大及び奈良女子大)コンソーシアム共同主催、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化科学研究センター設立準備委員会、大学婦人協会奈良支部共催】

第1部の公開講演会では、アフガニスタン留学生ディーバ・ユーソフザイ・カシミルさん(本学大学院人間文



化研究科博士前期課程1回生、カブール大学講師)により「アフガニスタンの留学生が語る—アフガン女性の過去と現在—」と題する講演が行われました。アフガニスタンの地理的特徴や歴史、文化、教育問題などを紹介のうえ、自らの体験にも触れながら、特に近年における女性教育の現状やアフガン女性への将来の期待について熱く語られ、参加した学生や市民に大きな感動を与えました。

第2部の「アフガン料理を楽しむ会」では、参加者は料理を通じた国際交流にも強い興味を抱いたようでした。



アフガン料理を楽しむ会の様子(左から重定副学長とディーバさん)

## 国際交流担当教授が着任

西堀わか子 教授



4月1日付けで、国際交流を担当する教員として奈良女子大学に着任いたしました。よろしくお願いたします。

只今は、留学生交流を含め国際交流の全般をみるというような役割で働いております。関係の皆様方とざつぱらんにお話しできる機会を持つと、私の方から皆様方のところへ訪問させていただきたいと考え、少しずつ訪問をし始めている昨今です。

奈良女子大学の伝統は聞き及んでおりますが、過日ソウルで開催された留学生フェアでは、奈良女子大学の昔からの家族ぐるみのファンというような親御さんに何人かお目にかかり、改めて奈良女子大学の伝統の重みを感じました。

## 国際交流基金による奨学金を受けて

Pham Thi Thu Giang

(人間文化研究科比較文化専攻博士後期課程2回生)

ベトナムから奈良女子大学に来たのは2000年10月でした。最初に構内に入って一番強く受けた印象は、落ち着いて、安心して勉強できる場であると感じたことです。その時から先生方のご指導や先輩や友人の暖かい支えをいただきながら、修士課程を修了することができて、博士後期課程の試験も受かりました。うれしいことに、試験の結果が発表されてから、しばらく経って、奈良女子大学国際交流基金の奨学金が支給されるということも留学生係の方からお聞きました。喜びが倍増して、感謝の気持ちでいっぱいです。

この奨学金のおかげで、アルバイトの時間を減らして、自分の研究をより深め、そして他の様々な有意義な活動にも参加することができました。この場を借りて、国際交流基金のために力を注いでいらっしゃる方々に感謝の気持ちを申し上げたいと思います。

## 国際交流基金用途報告

奈良女子大学国際交流基金は、本学の創立90周年を迎えた平成11年に、本学の同窓会である社団法人佐保会の支援活動により集められた90周年記念事業募金をもとに設立されました。平成12年度から、この基金に基づいて国際交流に係る支援活動を実施していますが、特に留学生支援については、平成16年度から外国人留学生奨学金の支給対象人数を拡大する等、その充実に努めています。

平成16年度における留学生支援実施計画

・外国人留学生奨学金	9名	432万円
・派遣留学奨学金	5名	50万円
・留学フェア参加事業	2件	69万円
・スピーチ大会援助		10万円